

## 1 研究主題（研究テーマ）

### 社会に開かれた、中学校社会科（歴史的分野）の学びをめざして

## 2 主題設定の理由

学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」に関して、平成 28 年中央教育審議会答申で「ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要である」としている。現在、「社会に開かれた教育課程」という言葉でその実現が求められている。

先に述べた「社会とのつながりをより意識した教育」を実現するためには社会科の授業の中で次のようなことに取り組むべきであると考え。現実の社会で起こっている問題の理解と分析、問題に対して行われている政策に対する評価、政策の修正案の作成、別の政策を立案する、といったことである。そのための学びは、教室の中だけでしか問われず、教室の中だけで完結してしまうような閉じられた学習ではなく、「問いの内容」「人との繋がり」「学習成果の発信」は社会と繋がり、社会に開かれた学習活動を創造していくべきである。以上の理由から、本研究テーマを設定した。

今年度の唐津地区社会科歴史部会では、部落問題学習の指導に特化して研修会を行った。その理由は、以下の通りである。これから教職員の世代交代が急速に進んでいくと予測されている。長年部落問題学習に取り組んできた教職員が、これまで研究したり研修を深めたりしてきた資料や指導法について、今こそ（特に若手の教職員に）継承する必要があるという判断から、今年度の歴史部会研修会を実施した。地区内で長年に渡って研究してきた教員が、若手教員を含む地区の全ての社会科担当者に向けた研修会を実施した。

## 3 研究の内容

- (1) 現実の社会で起こっている問題の理解と分析。事象の原因や背景について多面的に、正しく知ろうとする。
- (2) 社会参画につながる「単元の問い」の設定と議論を伴う単元開発
- (3) パフォーマンス課題の評価とラーニング・パートナーの活用
- (4) ICT利活用の方法と可能性
- (5) 部落問題学習の指導にかかわる研修

## 4 研究経過

本支部は、支部の全社会科担当教員を3分野の部会に分けて、それぞれ研究を進めている。今年度の唐津・東松浦支部の担当分野は歴史的分野だが、支部内では3部会がそれぞれ研究授業を行い、実践を高め合っている。以下は、今年度担当の歴史的分野の実践報告である。

- (1) 4月14日 唐津地区教科等部会
- (2) 10月16日 唐津地区中社研公民部会部会…研究授業指導案検討会・意見交換
- (3) 11月20日 唐津地区中社研公民部会研究授業(佐志中学校 野口教諭)  
「どのような取り組みをすれば、ワークライフバランスを実現できるか」  
～男性の育児休業の取得率を向上させるにはどのような取り組みが必要か～
- (4) 12月26日 唐津地区中社研歴史部会研究授業(北波多中学校 渡辺教諭)  
身分制度・部落問題学習についての実践報告と研究協議
- (5) 1月30日 唐津地区中社研地理部会研究授業(第一中学校 渋田教諭)「南アメリカ州」
- (6) 2月 22日 唐津地区社会科主任研修会

## 5 歴史部会研修会のまとめ

本研修会では、社会科の部落問題学習への取り組みについて、どのように取り組んでいるかということ、これまでの授業実践を踏まえながら実践発表、意見交換を行った。初任者をはじめ教職経験年数の短い先生方も増え、部落問題学習にどのように取り組んでいけばよいのかという質問や実践事例を知りたいという要望が多かったため研修会を設定した。以下の内容は、研修会で実践発表された資料の一部抜粋である。

「社会科の部落問題への取り組みについて」  
～社会科の部落問題学習への取り組みについて宗教・文化論的な側面からのアプローチ～  
北波多中学校 教諭 渡辺巖

・なぜ、現代の部落問題はなくなるのだろうか？

- ①昔からの因習的価値観にとらわれている人がまだいる。。
- ②明らかな他者との外見的な差異がないことが、解決を遅らせている。
- ③特別措置法以後の、ねたみ・そねみ等々(他にもたくさんあるのですが。。)  
→この差別に対して、社会科において、特に何か出来ると言えば1番目の因習的価値観に対して宗教・文化論的な側面からのアプローチから学習を進めていくことではないか。

・部落問題を現在まで残してしまっている因習的価値観について

- ①日本文化～日本文化として神道・仏教・陰陽道等に端を発する宗教的メンタリティと、宗教的儀式に端を発する年中行事の中の俗信・オカルトの数々。
- ②長年、言い伝えられたことに対して素朴に「昔から云われていることはだから」と無批判的に受け入れている世俗的知識。(そしてその知識が染みついて形成された生理的、感情的な価値観。)
- ③死や死体や腐臭などに対する生理的な恐怖心・嫌悪感に始まるもの。

・教員としてどんな取り組みをすべきかの考察(HIV患者への差別を中心に)

- ①情緒面からのアプローチ・・・人権教育の推進。人として差別はいけない。ひどい。認め合おう。
- ②論理面からのアプローチ・・・例えば・・・知らないことは恐怖につながりやすく。正しい知識は恐怖を和らげる。療法や対処法を論理的に学ぶことが必要。

・社会科教員が部落問題学習に対して何ができるか

歴史の時間を通じて論理面に関して、「なぜこんな風に当時の人達は感じ、考えたのだろうか」という部分について出来るだけ掘り下げて行きたいと考えた。そこで、江戸時代の身分制度、明治時代の解放令、大正時代の全国水平社といった教科書の記述のみならず、日本史の中で日本文化の特徴の一部を大きく形づくるものとして宗教・文化論的な側面を授業に出来るだけ織り交ぜるようにした。もちろん古代の差別がそのままつなげられているわけではないが、現代も含めて日本人の考え方を理解し、部落差別を論理的に解明し、反差別の態度を養うために宗教・文化論について考えることは大変有効であると考えている。

## 6 研究の成果と課題

例年とは違った趣向での研修会であったが、改めて「けがれ意識」や差別の歴史的経緯について学びなおす機会となった。社会科担当の教職員であれば避けては通れない学習指導内容であるため今回のような研修の必要性をあらためて実感した。今後は、模擬授業のような形での研修も行い、より実践的な研修会の実施が望まれる。